

第 66 回東葛しぜん研修会

知っていますか？ムシの生活

藤田 隆（松戸市）

日 時：2013 年 6 月 30 日（日）10：00～12：00 天気：晴
場 所：21 世紀の森と広場 パークセンター2 階シアター及び野草園周辺（松戸市）
参加者：指導員 26 名、協議会 2 名、一般 3 名、計 31 名
講 師：川北裕之氏 担当指導員：藤田 隆、川瀬美幸、長谷川依子

前半は 10～11 時までパークセンター2階のシアターで川北先生の講義を行い、午前中の残りの時間と昼食をはさんで午後の一時間を屋外で生き物を観察しました。座学は昆虫の分類学、南方系の生きものの北上現象についての講義でした。最近の分類学ではDNA情報に基づく分類が主流になり、従来の分類が変わる可能性も出てきたとのことでした。

北上現象の一つ、ヨゴズナサシガメが観察されたのが数年前のことで、強力な捕食力と繁殖力で数を増して、千駄堀でも珍しくなくなってきて、体液を吸われたシデムシ、ハンノキハムシはハンノキの樹下に死骸をさらけ出す異様な光景が広がってきたとの話。それ以来ヨゴズナサシガメは、居て当たり前の生きものになってしまいました。ヨゴズナサシガメの北上現象は1990年代に関東地方で確認され、以来北上現象が続いているようです。北上現象ばかりでなく、生息の分布が拡大した原因を追究すると、暖冬、緑化・造園の拡大で緑化樹木に付随してきたものも多いらしく、アカボシゴマダラチョウの分布拡大は人為的放蝶の疑いも消えていません。

講義後、屋外では羽化したてのオニヤンマ、オオシオカラトンボ、シオカラトンボ、アカボシゴマダラチョウの幼虫、優雅に飛ぶクロアゲハ、ジャコウアゲハが観察できました。クモ類、バッタ類はプラケースに入れて観察し、クモによって単眼の配列に違いがあることなどが学習できました。「虫の基本を勉強したい」から始まった研修会、人のネットワークを頼りに先生にお出でいただき、川北先生からは刺激を受けましたと感謝のメールをいただきました。学期末のお忙しい中でパワーポイントの準備とレジュメも用意いただきました。指導員の皆さんには捕虫網・虫カゴ・プラケースの用意と観察会中も進行を助けていただきました。

21 世紀の森と広場では、夏休みの期間連続してイベントを企画しています。7月 27 日の一般観察会は東葛しぜん観察会と公園管理事務所との共催企画として行います。今回の研修会はそのプレイイベントとして事務所の皆さんに会場の設営などの協力をいただきました。

○この日観察できた生き物

- ◆チョウ：クロアゲハ♀、ジャコウアゲハ♀、モンシロチョウ、ヤマトシジミ、ベニシジミ、ツバメシジミ、アカボシゴマダラチョウ幼虫
- ◆ガ：エダシャク、カラスヨトウ、シャクトリムシ幼虫
- ◆トンボ：オニヤンマ、オオシオカラトンボ♀♂、アキアカネ、シオヤトンボ、コシアキトンボ、アジアイトトンボ♀♂、ノシメトンボ、ウスバキトンボ、シオカラトンボ♂
- ◆甲虫：ナミテントウ、ヒメカメノコテントウ、ヨツスジハナカミキリ、サクラコガネ、コクゾウムシ、ヘイケボタル、アオバハゴロモ、カメムシ幼虫（薄いブルーに黒点）
- ◆バッタ：シヨウリョウバッタ、ヒシバッタ、ヤブキリ♂♀、ナナフシモドキ、チョウセンカマキリ幼体、オオカマキリ幼体、
- ◆クモ：イオウイロハシリグモ

